

## 平成27年度 事業報告

平成27年度は、政府と日本銀行が息を合わせながら、デフレ脱却そして強い経済を目指す中、我が国を再び成長軌道に乗せるために、所謂アベノミクスによる新三本の矢戦略、また日銀によるマイナス金利政策などが実施されました。

その甲斐あって、地方においても企業収益の改善も一部図られつつあるようですが、個人消費が伸び悩むなど人々が享受する生活の豊かさは今一歩の状況と思われます。

このような中、我々シルバー人材センターを取り巻く環境を顧み見ますと、国におけるシルバーへの補助金の姿勢が、台所が厳しい一般財源によるシルバー運営費補助が削減傾向となり、新たに労働保険特別会計雇用勘定を財源とした事業費補助へとシフトしてきました。

その結果、より地域の企業や雇用環境に配慮した派遣によるシルバー会員の就業が求められるものとなっていました。

このことは、シルバー発足時からのシルバー就業の大宗である請負・委任を継続しつつ、時代に即したシルバー就業の多様性を求められるものであり、就業を通して地域社会に貢献という我々シルバーにとって、チャンスと前向きに捉えるべきものです。

そして、取り巻く環境の変化に適応するように、会員、役員そして職員が、今までのシルバー事業を顧みながら引き続き継続すべきことと思い切って変えていくべきことを真摯に協議しつつ、今後のシルバーのあるべき姿を示していくシルバー改革案を作り上げ、会員皆様の理解を得つつ実施に向けての端緒を切った年度でもありました。

本年度の事業実績においては、受託事業収益で約4億2,757万円、前年度比99.8%、約67万円の減、しかし派遣事業受託収益は約135万円、前年度比167.6%、約55万円の増となるとともに、単年度経常収支において、前年度とほぼ同じ1,440万円の黒字を出すことができました。

今後も、シルバーの原点である「就業を通して自らの生き甲斐を持って、地域社会に貢献」を掲げて、会員、役員そして職員が力を合わせてシルバー改革の実施を通して、将来とも健全なシルバー事業の運営・推進に努めてまいります。

項目 年度	① 26年度	② 27年度	② - ① 前年度比
会員数 (人)	1,251	1,145	△106
受注件数 (件)	7,616	7,208	△ 408
契約金額 (円)	428,231,250	427,565,405	△665,845
就業実人員 (人)	929	922	△ 7
就業延人員 (人日)	100,838	97,854	△ 2,984
就業率 (%)	74.3	80.5	6.2
単年度収支 (円)	14,139,449	14,401,365	261,916

## 平成27年度に取り組んだ主な事項

### 1 就業機会の拡大

#### (1) 職員による就業開拓

①定期的な企業訪問による就業開拓の試行を実施しました。

#### (2) 地域や企業のニーズの把握

①訪問による発注者・利用者等の意見等の聴取に努めました。

#### (3) 全会員へ就業開拓取組みの検討

理事会での「会員1人1仕事紹介運動（仮称）」の検討を行いました。

#### (4) 就業開拓員を中心とした企業訪問・一般家庭訪問及びポスティングに努めました。

#### (5) 全会員へのアンケートの実施

就業希望と発注者とのミスマッチの減少を目指して、会員アンケートを実施しました。

### 2 会員の拡大

#### (1) 新規会員の加入促進

##### ①理事による入会説明会の継続実施

入会説明会67回開催、参加者201人、入会者113人

②会員による就業時の隣近所への声掛けなどPRを兼ねた加入促進

#### (2) 普及啓発活動の推進

①就業開拓員の活動時に合わせてシルバーのPRと会員拡大に努めました。

②普及啓発月間の10月に合わせた、ボランティア活動の展開やチャリティバザーを通して普及啓発に努めました。

③佐世保市の広報誌「広報させぼ10月号」にシルバー事業を掲載

### 3 安全・適正就業の推進

#### (1) 安全就業の推進

①安全衛生委員会による就業現場への計12回の巡回指導

②全会員を対象とした北部・中部・南部地区別の安全及びマナー研修会を実施しました。

#### ② 各種研修会・講習会その他会議時における安全講話の実施

④安全だより計4回発行において、安全情報の提供と周知

#### (2) 適正就業の推進と公平な就業機会の提供

請負・委任・派遣など実態を把握した適正就業の推進に努めました。

また、未就業リストの活用による公平な就業機会の提供も行いました。

#### 4 事業運営の効率化及び財政基盤の安定

##### (1)シルバーあり方検討委員会の設置と検討及び改革準備

平成28年度実施に向け、シルバー改革を議論する「あり方検討委員会」を立ち上げました。この委員会での、シルバー発足の原点に立ち返りつつ今後の事業運営の健全化に向けた真摯な議論・検討を踏まえ、改革案の理事長報告を行いました。その後、理事会承認を経て、改革に向け全会員への説明とその準備を行いました。

##### (2)経費節減の徹底と事務効率化の推進

①公用車の使用実態に基づく適正配置と3台の減車による経費節減に努めました。

②事務局体制の強化のための嘱託化を更に行いました。

##### (3)財政基盤の安定

①月次の収入また4半期の収支に意を払いながら、キャッシュフロー会計においての安定を目指し一時資金借入れからの脱却という目標設定を立て、収入の確保ときめ細かな支出の管理に努めました。その結果、昨年度に引き続き正味財産の増加を図りました。

②昨年度に引き続き職員の意識改革において、職員間の意思疎通と情報の共有を図る中で、常に費用対効果の意識醸成など経営の視点を持って業務遂行に努めました。

#### 5 福祉・家事援助サービスの実施

##### (1)ワンコインサービス事業の開始と推進

シルバー事業のPRを兼ねた地域ニーズに沿ったきめ細やかなサービスを目指してワンコインサービス事業を本年度から開始しました。

当事業への会員の協力体制を図りつつ、民生児童委員協議会・老人クラブそして町内会組織への当事業のPR活動に取り組みました。

##### (2)介護周辺事業の検討

平成29年度からの介護保険の要支援者サービスにおける市町村事業（地域支援事業）への移管に伴う介護周辺事業について、市担当部局と情報交換を行いながら、福祉家事援助サービス部会を中心にワンコインサービス事業の活用など検討を深めました。

#### 6 会員による自主的運営体制の確立

##### (1)「あり方検討委員会」を立ち上げ、副理事長を委員長として関係専門部会長・各職群部会長そして地域ブロック区長の構成メンバーの下、シルバ

一のあるべき方向付けを協議し、理事長に改革案の報告を行いました。

- (1)理事会を中心とした中で各種専門部会・委員会などを通した会員・役員による活発な議論・協議を行いながら、問題意識と改革意識を持って自主的運営に心掛けました。
- (2)剪定・除草の技能向上と後継者育成をめざし、会員の講師による春・秋の講習会を実施しました。
- (3)地域別ブロック研修会の一部合同開催など地域を超えた会員間の連携も図りました。

## 7 長崎県シルバー人材センター連合会等との連携

県シ連に当センターの事案に対する相談を率直に行いながら、常日頃の連携に積極的に努めるとともに、県内のシルバーとも現場の拠点シルバーとしての問題意識の共有と解決策の模索など密な連携に努めました。